
歴史を取り戻せ！！

雛 ヒヨコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歴史を取り戻せ！！

【Nコード】

N1932W

【作者名】

雛 ヒヨコ

【あらすじ】

変わってしまった歴史を元に戻すために、タイムスリップした桜の見たものは！？

ちよー仲のいい源氏と平家。

野心の無い戦国武将達。

が幕末にだい集結！？

果たして、歴史は元に戻るのか！？

序章

可笑い。

何かがおかしい。

一体、この一週間で何が起つたのだ？

桜は、違和感を感じながら大学院へむかった。

沖田 桜 19歳。

たった16歳で博士号を獲得した、天才。

今は、日本の歴史を専門に研究する教授。

今日まで、学会の発表のために、家にこもって、論文を書いていた。

やっぱり、何か違和感がある・・・

桜が辺りを見回していた時。

「沖田君」

少し、しわ枯れた、けれど耳馴染みのいい声が桜をよんだ。

「豊田博士、お久しぶりです。どうかされたんですか？」

桜の博士時代の恩師の豊田 惇が切羽詰まった顔で立っていた。

「君にしか、頼めないことがあるんだ。」

教授と博士

「私にしか、頼めない事？　なんででしょう？？」

頼まれたら断れない性格の桜は、博士の話を二つ返事で聞くことにした。

*
*
*
*

•

桜は今、博士の研究室で、紅茶を飲んでいた。

なかなか、話し出さない博士をじっと見つめる。

そうしていると、博士は覚悟を決めたように話し出した。

「僕は、歴史を変えてしまったかもしれない……いや。変えてしまったんだ。」

[illegible]

博士時代の先輩の爆弾発言に、桜はついに、頭がおかしくなってしまうのか、と失礼なことを考えてしまった。

「別に、頭がおかしくなっただけではない。」

そんな、桜の気持ちを知ってか知らずか、博士は訂正して語りだした。

タイムマシン！？（前書き）

遅くなりました。

今度からはもう少しマメに更新します。

タイムマシン！？

「君がまだ、研究室にいた頃、時間を遡る、タイムマシンを作る研究をしていただろう。」

覚えているかい？

教授が聞いてくる。

馬鹿にし無いでほしい、覚えているに決まっている。

私が研究室をでる、きっかけになった、研究なのだから。

16歳の幼い私にとって、博士達の研究は馬鹿げたものだった。

それなりに、博士達の事は尊敬していたけれど。

時間を遡るとか、あり得ない事に時間を費やす博士達は、当時の幼い私にとっては信じられない、事だった。

同時に研究者と言う仕事は私に向いて無いんだなと実感した。

「はい。覚えています。」

「実はな、君が残した、時間の流れと速度の分子の研究レポートのおかげで、つい、七日前タイムマシンが完成したんだよ。」

ああ、あのレポートが・・・

桜は、なんと無く納得した。

研究室を去る前に残したレポート、あれは自分でも完璧と言えるほどの出来栄えだった。

「わしらは、浮かれすぎていた。とんでもないことをしでかしてしまっただんだ・・・」

過去へ

「まあ、とにかくタイムマシンをみてくれたまえ」

一通り話した後、博士はタイムマシンがある所へ桜を誘導しようとする。

博士の話は、信じられないものであったが、元研究員である桜は”知りたい”

という、好奇心にはかてなっかた。

博士が連れてきたのは、研究室の一角だった。

そこにあったのは、ミニのロケットのようなもの。

「これですか・・・」

タイムマシンだと言うものを目の前にして、やっぱり好奇心には勝てない桜は、

警戒しながらも、中に入った。

その時!!!

————ドン!!!!!!

桜は背中を押され、何かのスイッチを押してしまった。

「えつつつ」

「時代を戻してくれ！！頼んだよ沖田君！」

背中あお押したのは、言うまでもなく博士、
そして、桜の返事も待たずドアが閉められる。

「えっちよつと！！！！え~~~~~」

桜の意味にもならない、講義もむなしく。
桜の視界から博士は消えていった、否。
桜が消えたのだ。

右も左も

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

桜はさくらの並木が並ぶ丘に立っていた。
信じられない、光景に声が出ない。

丘の下に見えていたものは、正しく、桜が研究している、江戸の街
そのものだった。

「うそ・・・・・・・・そんなことって・・・」

本当に、時を超えてしまったのだ。

「ありえない」

研究していたとはいえ、過去は過去。

桜は右も左も分からない過去に一人放り出されたのだ。

「ありえな〜〜い」

桜はただ、ただ叫ぶしかなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1932w/>

歴史を取り戻せ！！

2011年11月26日22時45分発行